松引き（柱松行事）（新潟県指定文化財）

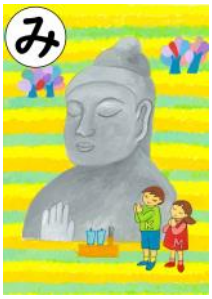
松引きは仮山伏が行う点火競争の神事である。上方（かみかた）、下方（しもかた）にわかれて、仮山伏が火打石でこれに着火し競うのである。上方が早ければ稲作、下方が早ければ畑作が豊作。着火すると大きな歓声があがり吉祥の松を倒し、「若松様…」の祝い唄をうたい子どもが中心となって松を引く。

松引きは
豊作願う
（ま）火のまつり

大谷の地震供養塚

弘化４年（1847）５月８日の大地震（長野善光寺地震）により、大谷集落では山崩れが発生し、15～16軒が土砂に埋没して60人が犠牲となった。23年後の明治２年（1869）に大谷集落の聞称寺境内に供養塚が建てられた。

山崩れ
六十人を祀る
（や）供養塚



弥勒菩薩（新潟県指定文化財）

関山石仏群の中で最大の弥勒菩薩像は像高135ｃｍを測り、右手は施無畏印を結んでいる。平安時代末頃に造られたと推定される。参拝すると「歯の痛みが治る」とされ、お礼に年齢の数だけ生の豆を供える慣習があったといわれている。

弥勒様
お団子ヘアーの
（み）おしゃれ仏

妙高山の雪形

春になると妙高山の中央に雪形の「山」の字がくっきりと現れる。この雪形を合図に麓の農家は苗代づくりや、畑の種まきを始める。寛保３年（1743）の「阿弥陀三尊御影札」にも「山」の雪形が描かれている。妙高山にこの雪形を見るとき、極楽浄土を強く意識し手を合わせたくなる。

雪形の
「山」の字正しく
（ゆ）楷書なる
（秀峰の句）

逢龍寺の大いちょう

大鹿の逢龍寺には鎌倉時代作の鉄製十一面観音懸仏（妙高市指定文化財）のほか、親鸞聖人の十字名号や、蓮如上人の筆といわれる六字名号が伝わっている。寺は明治40年（1907）の火災で焼けたが、本堂前の大いちょうは焼け残り、樹齢700年の大木が、昔の歴史を語っている。

昔を語る
逢龍寺の
（む）大いちょう

御輿

火祭りの二日目に集落内を巡る御輿は370kgと重い。夜遅くに宮入りする前には、門燈の手前で入れようとする若者会役員と、まだ入れまいとする若者のもみ合いが続く。この御輿の擬宝珠は全国でも珍しい火焔を模したものである。門燈をくぐるとおごそかに祭りが終焉を迎える。

夜の御輿
擬宝珠　かがやく
（よ）お宮入り

庚申いっぱい清水

大鹿集落から古塔山まで歩くと、山腹に庚申いっぱい清水が湧き出ている。名水として知られ、新井の君の井酒造がこの清水を使って「妙高天狗の隠し酒」を造っている。清水の山手にある安宮神社はこの古塔山を天狗のようにかけまわったという修那羅さんを祭神としている。

芽吹く山々
いつもおいしい
（め）庚申清水

第２回妙高かるた大会　開会時の写真

奉献俳句額

関山神社の再建成就を願って文化６年（1809）に71首の俳句が奉納された。この俳句の撰者となった松宇は、「一茶十哲」の一人に数えられる長沼（長野市豊野）の名主であった。松宇は奉献額の末尾に賑やかな夏まつりの情景を詠んでいる。

森のうち
太鼓ひびくや
（も）夏まつり
（松宇の句）

妙高かるたの世界を訪ねた妙高小学校のつばさ遠足